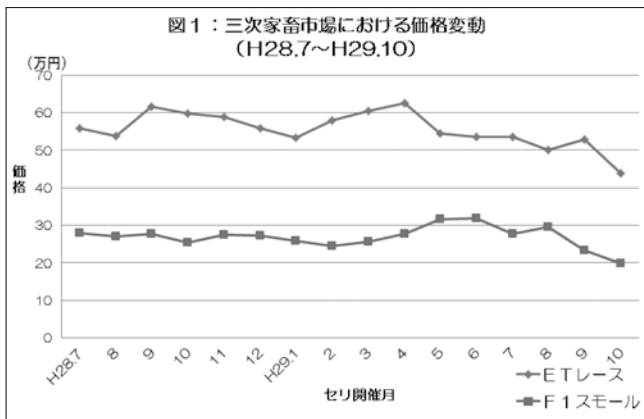


ET(受精卵移植)和牛子牛の哺育育成

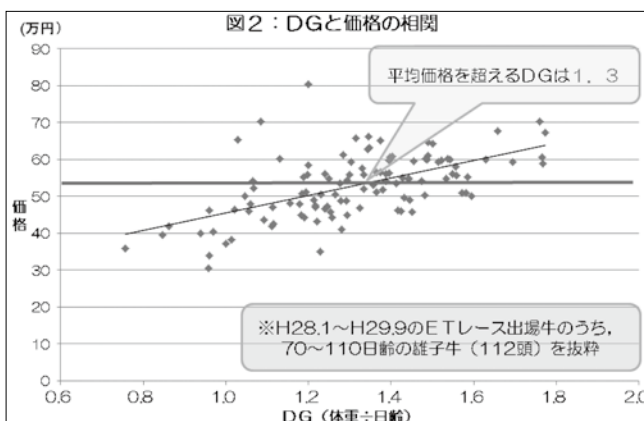
広島県立総合技術研究所畜産技術センター 育種繁殖研究部 研究員 柴田 愛梨氏

ここ数年、高値で推移してきたETレースでの子牛価格ですが、直近では月間の変動が大きく、若干の下降傾向にあります(図1)。しかし、依然として、ET和牛子牛はF1子牛と比較して価格が20~30万円高く、大きな幅で推移しており、販売の収益は酪農経営に大きなプラスになります。



さて、ETレースの和牛子牛価格に影響を与える要因にはどのようなものがあるのでしょうか? 「性別」「血統」「体重」…など、さまざまな要因があります。今回は「体重」にスポットを当ててみましょう。

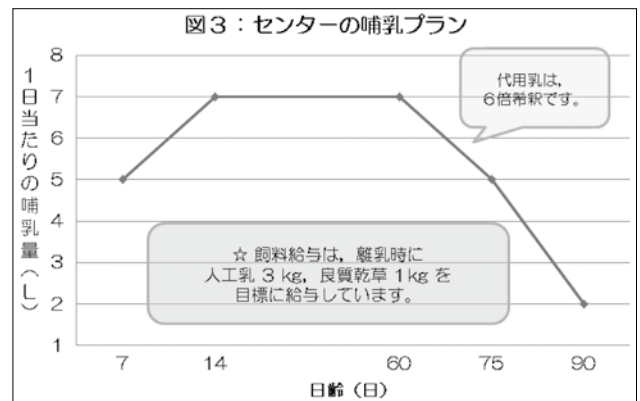
ETレースに出場する子牛の日齢はとて幅広く、体重をそのまま比べることは難しいので、DG(1日増体量=体重÷日齢)に換算して分析をしてみました。その結果は、みなさんのご想像のとおりだと思いますが、DGが大きい牛の方が高い価格になる傾向がありました(図2)。また、今回の分析では、平均価格以上の子牛のDGは、「1.3」となりました。



これらのことから、ETレースに出場するまでの子牛の哺育育成は、とても重要といえます。当センターにおいても、ETによる和牛生産を行っており、子牛時期の飼養管理について検討を行ってきました。現在の和牛子牛の哺乳プログラムについて紹介します。

【畜産技術センターの和牛子牛哺育育成プラン】

生まれた子牛は、生後3日間には「初乳」を、4~6日齢には「生乳と代用乳」を給与し、7日齢からは哺乳ロボットで「代用乳」のみを給与します。哺乳プランは図3のとおりです。まず、代用乳1日当たり810gから徐々に給与量を増やし、生後14日で最大量の1,100gに移行します。生後60日から、少しずつ給与量を減らし、90日齢で離乳します。ただし、生時体重が小さい子牛(30kg未満)については、はじめのうちは様子を見ながら哺乳することが必要です。



人工乳(スターター)や良質乾草(主にチモシー)は、哺乳ロボットによる哺育開始から給与を行い、離乳時に人工乳3kg、乾草1kg程度摂取することを目標にしています。このプランで哺育した子牛の離乳時期の体重は、表1のとおりです。センターが受精卵供給を行っている種雄牛の産子も、DG1.3以上の良好な増体が得られています。参考にしてください!

表1：センターの和牛子牛育成成績

父牛	頭数 (雄のみ)	平均		
		生時体重	離乳時期の 体重(日齢)	DG (体重÷日齢)
田安照	4頭	35.5 kg	137.3 kg (94.3日)	1.46
美津百合	3頭	38.3 kg	136 kg (93日)	1.46
沖茂金波	4頭	39.3 kg	115.2 kg (89.3日)	1.30